

6/8 新型コロナウイルス感染症対策のために 伊達地区自動車整備協同組合 町へ寄附

伊達地区自動車整備協同組合（渡部弘二理事長）が町に現金10万円を寄附しました。当日は、渡部理事長などが役場を訪れ善意を届けました。

寄附の目的は新型コロナウイルス対策。組合は、コロナ禍から町民を守るための一助になればと今回の寄附を決めました。渡部理事長は「コロナ対策に役立ててください」と真屋町長に寄附金を手渡し、一刻も早い収束を願っていました。



真屋町長に寄附金を手渡す渡部理事長（右）

6/3・6/11 まちをきれいに 雑草除去ボランティア

虻田地区の主要幹線道路である国道37号の歩道をきれいにしようと、沿線住民や地元企業、室蘭開発建設部職員、役場職員など延べ約100人が参加し、雑草除去作業を行いました。昨年引き続きマスク着用やソーシャルディスタンスなど新型コロナウイルス感染症対策を行いながら作業を実施。

2日とも午前7時から、草取り用の鎌やスコップを使い、縁石の隙間や電柱の根元に生えた雑草を取り除きました。



雑草除去に汗を流す参加者

6/23 防災への知識を深める 虻田高校 1日防災学校

虻田高校（廣川雅之校長）が1日防災学校を実施しました。町担当者が有珠山噴火について説明。2000年噴火の反省点として避難所の移動が相次いだことや、生活環境の悪さなどを挙げ「避難所運営には地域の支援が必要。皆さんが協力できることを考えてください」と呼び掛けました。

生徒会長の津崎志誠さん（3年）は「有珠山噴火を詳しく学ぶ重要な機会になりました」と話していました。



有珠山噴火について学んだ虻田高校の1日防災学校

6/12 花々で芸術館を彩る 洞爺湖芸術館で花壇整備

洞爺湖町交通安全協会洞爺支部（中澤昭会長）や洞爺地区の住民ボランティア約10人が参加し、洞爺湖芸術館の花壇を整備しました。

参加者は、ピンクや白など色とりどりのペコニアの苗を植え、芸術館を華やかに彩りました。花壇ブロックの修繕や木のせん定も行い、来館者が花壇越しからの洞爺湖の景色を見て、気持ちよく過ごしてもらえるように準備を整えました。



洞爺湖芸術館の花壇に花を植える参加者

6/30 アイヌの伝統刺しゅう学ぶ
ウトウラノでアイヌ文化体験教室初開催

ア イヌ民族共生拠点施設ウトウラノでアイヌ文化体験教室が初めて行われました。アイヌが厄除けのために考えたと思われる「アイウシ」「モレウ」の文様を刺しゅうしたマスクなどを作りました。

菅義偉首相が官房長官時代にアイヌ文様のマスクを贈り、話題となった登別アシリの会の芳賀美津枝さんが指導。参加者はアイヌ文化に理解を深めながら、ていねいに針を運んでいました。



伝統の刺しゅうを学んだアイヌ文化教室

6/25 西胆振の特産品をデザイン
日本郵便が「大地の恵みフレーム切手」を寄贈

日 本郵便が、洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会と協力して製作した「大地の恵みフレーム切手」を町に寄贈しました。フレーム切手は、洞爺湖町など西胆振1市3町の特産品をデザイン、道内20局以上の郵便局で販売されています。

真屋町長に寄贈した胆振地区郵便局長会橋本宗人会長、虻田郵便局尾形光平局長、洞爺郵便局肥吾信吾局長は「この切手で大切な人に手紙を送ってほしいです」と話していました。



フレーム切手を寄贈した尾形局長（右）、橋本会長（右から2人目）、肥吾局長（左）

7/6 集めたペットボトルキャップは20キロ
虻田中が社会福祉協議会に寄付

虻 田中学校（瀧澤義守校長）が、洞爺湖町社会福祉協議会にペットボトルキャップ20キロを寄付しました。校内に設置した回収箱を使い、数年前から地道にキャップを回収。当日は、生徒会長の田仁優策さん（3年）と副会長の小野寺陽月さん（2年）が届けました。

田仁さんは「先輩たちが集めてくれたキャップを届けられて光栄です。生徒会でも寄付の活動を続けたいです」と意気込んでいました。



ペットボトルキャップを届けた田仁さん（中央）と小野寺さん（左）

7/6 災害時の安否を一目で確認
伊達緑丘高校「防災安否札」を寄贈

伊 達緑丘高校（須藤克志校長）の生徒たちが有珠山噴火などに備えた「防災安否札」を作成、町に寄贈しました。同校3年生の出村紗弥さん（洞爺湖町出身）と結城七菜子さんが考案。「安否札」は緑色で「無事」、赤で「救助求む」と書かれていて、玄関先に貼ることで、安否が確認できます。

出村さんは「防災意識を高めることで、犠牲者が出ないようにとの思いで作りました」と話しました。



真屋町長に防災安否札を手渡す出村さん（中央）と結城さん（右）